

第 10 回「山形県家計消費動向調査」結果 (平成 20 年 12 月調査)

平成 20 年 12 月

株式会社荘銀総合研究所

目 次

I. 今月の消費指数（総括）	1
II. 調査結果	3
1. 景気判断と見通し	3
① 県内景気	3
② 雇用環境	3
③ 日用品価格（物価）	4
2. 暮らし向き判断と見通し	6
① 世帯（勤労）収入	6
② 資産価値	6
③ お金の使い方（支出状況）	7
④ 生活のゆとり	7
3. 日常の買い物に関する判断と見通し	9
① 嗜好品（お茶・コーヒー、お酒、たばこなど）	9
② ファッション衣料・靴など	9
③ 家電・AV製品、家具など	10
④ 金融商品（株式、債券など）	10
⑤ 娯楽・レジャー	11
⑥ 習い事	11
⑦ 交際費	12
4. 大きな買い物に関する判断と見通し	13
① 自家用車	13
② 住宅の購入・リフォーム	13
III. 今月の家計簿	14
IV. 特別調査：節約の意識について	15
(1) 節約の意識について	15
(2) 節約を意識している理由	16
(3) 節約を特に意識する出費	17
(4) 年収50万円増額の使い道	18
V. 調査の概要	19

I. 今月の消費指数（総括）

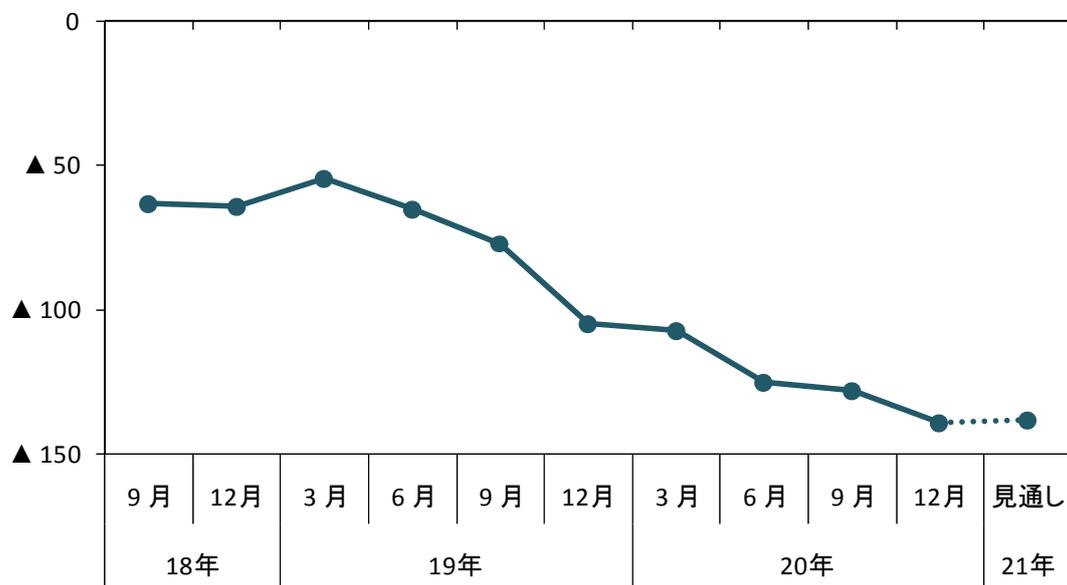
★ 消費指数は▲139.2 ～ 消費マインドの悪化に歯止めがかからない状況 ～

消費指数は前回調査時点（平成20年9月）よりも11.2ポイント低下し▲139.2となるなど、過去最悪を更新。引き続き消費マインドの悪化に歯止めがかからない状況が続いている。

消費指数の内訳は景気判断指数が▲77.3（前期差：▲4.2）、暮らし向き指数が▲61.9（前期差：▲7.0）となっており、相対的に景気判断指数の低さが目立つ。特に、景気と雇用環境に関する認識の悪化がマインド悪化につながった（次頁参照）。

なお、今後の見通しについては、消費指数が0.8ポイント改善し▲138.3となったが、依然として消費マインドの先行きは暗い。

図表 1 消費指数の推移



図表 2 消費指数の概要

調査時期	消費指数	景気判断指数				暮らし向き指数				
		景気	雇用環境	物価	世帯収入	資産価値	支出状況	暮らしのゆとり		
19年 12月	▲104.7	▲55.5	▲15.2	▲12.1	▲28.2	▲49.2	▲10.3	▲11.4	▲11.7	▲15.8
20年 9月	▲128.0	▲73.1	▲22.1	▲19.4	▲31.6	▲54.9	▲10.1	▲13.2	▲14.1	▲17.5
20年 12月	▲139.2	▲77.3	▲26.0	▲27.1	▲24.2	▲61.9	▲11.9	▲15.4	▲15.9	▲18.7
前期差 (寄与度)	▲11.2 ▲8.8%	▲4.2 ▲3.3%	▲3.9 ▲3.0%	▲7.7 ▲6.0%	7.4 5.8%	▲7.0 ▲5.5%	▲1.8 ▲1.4%	▲2.2 ▲1.7%	▲1.8 ▲1.4%	▲1.2 ▲0.9%
前年同期差 (寄与度)	▲34.5 ▲33.0%	▲21.8 ▲20.8%	▲10.8 ▲10.3%	▲15.0 ▲14.3%	4.0 3.8%	▲12.7 ▲12.1%	▲1.6 ▲1.5%	▲4.0 ▲3.8%	▲4.2 ▲4.0%	▲2.9 ▲2.8%
21年 見通し	▲138.3	▲72.4	▲24.8	▲26.1	▲21.5	▲65.9	▲14.9	▲16.6	▲17.3	▲17.1

(注) 四捨五入により、各項目の寄与度を足し合わせても消費指数（伸び率）とは必ずしも一致しません。

【指数の見方】

消費指数は①景気判断指数と②暮らし向き指数の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します（詳しくはV. 調査の概要6. 指数の作成方法をご覧ください）。

図表 3 消費指数（内訳）の推移

消費指数										
調査時期	消費指数	景気判断指数				暮らし向き指数				
		景気	雇用環境	物価	世帯収入	資産価値	支出状況	暮らしのゆとり		
18年 9月	▲63.3	▲23.7	▲6.1	▲3.6	▲14.0	▲39.6	▲8.0	▲9.7	▲8.6	▲13.3
12月	▲64.0	▲23.0	▲7.6	▲5.0	▲10.5	▲40.8	▲8.0	▲10.1	▲9.4	▲13.4
19年 3月	▲54.5	▲17.3	▲4.7	▲4.0	▲8.6	▲37.2	▲6.8	▲9.0	▲8.5	▲12.9
6月	▲65.0	▲26.0	▲5.6	▲3.9	▲16.4	▲39.2	▲6.8	▲9.9	▲9.6	▲12.8
9月	▲77.0	▲34.5	▲8.8	▲9.1	▲16.6	▲42.5	▲8.7	▲9.3	▲10.6	▲13.9
12月	▲104.7	▲55.5	▲15.2	▲12.1	▲28.2	▲49.2	▲10.3	▲11.4	▲11.7	▲15.8
20年 3月	▲107.3	▲57.9	▲16.2	▲13.3	▲28.4	▲49.4	▲9.9	▲11.3	▲12.3	▲15.9
6月	▲125.3	▲69.5	▲20.8	▲16.7	▲32.0	▲55.8	▲10.6	▲13.3	▲13.7	▲18.2
9月	▲128.0	▲73.1	▲22.1	▲19.4	▲31.6	▲54.9	▲10.1	▲13.2	▲14.1	▲17.5
12月	▲139.2	▲77.3	▲26.0	▲27.1	▲24.2	▲61.9	▲11.9	▲15.4	▲15.9	▲18.7
21年 見通し	▲138.3	▲72.4	▲24.8	▲26.1	▲21.5	▲65.9	▲14.9	▲16.6	▲17.3	▲17.1
(前期差)										
調査時期	消費指数	景気判断指数				暮らし向き指数				
		景気	雇用環境	物価	世帯収入	資産価値	支出状況	暮らしのゆとり		
18年 9月										
12月	▲0.7	0.7	▲1.5	▲1.4	3.5	▲1.2	0.0	▲0.4	▲0.8	▲0.1
19年 3月	9.5	5.7	2.9	1.0	1.9	3.6	1.2	1.1	0.9	0.5
6月	▲10.5	▲8.7	▲0.9	0.1	▲7.8	▲2.0	0.0	▲0.9	▲1.1	0.1
9月	▲12.0	▲8.5	▲3.2	▲5.2	▲0.2	▲3.3	▲1.9	0.6	▲1.0	▲1.1
12月	▲27.7	▲21.0	▲6.4	▲3.0	▲11.6	▲6.7	▲1.6	▲2.1	▲1.1	▲1.9
20年 3月	▲2.6	▲2.4	▲1.0	▲1.2	▲0.2	▲0.2	0.4	0.1	▲0.6	▲0.1
6月	▲18.0	▲11.6	▲4.6	▲3.4	▲3.6	▲6.4	▲0.7	▲2.0	▲1.4	▲2.3
9月	▲2.7	▲3.6	▲1.3	▲2.7	0.4	0.9	0.5	0.1	▲0.4	0.7
12月	▲11.2	▲4.2	▲3.9	▲7.7	7.4	▲7.0	▲1.8	▲2.2	▲1.8	▲1.2
見通し	0.9	4.9	1.2	1.0	2.7	▲4.0	▲3.0	▲1.2	▲1.4	1.6
(前年同期差)										
調査時期	消費指数	景気判断指数				暮らし向き指数				
		景気	雇用環境	物価	世帯収入	資産価値	支出状況	暮らしのゆとり		
18年 9月										
12月										
19年 3月										
6月										
9月	▲13.7	▲10.8	▲2.7	▲5.5	▲2.6	▲2.9	▲0.7	0.4	▲2.0	▲0.6
12月	▲40.7	▲32.5	▲7.6	▲7.1	▲17.7	▲8.4	▲2.3	▲1.3	▲2.3	▲2.4
20年 3月	▲52.8	▲40.6	▲11.5	▲9.3	▲19.8	▲12.2	▲3.1	▲2.3	▲3.8	▲3.0
6月	▲60.3	▲43.5	▲15.2	▲12.8	▲15.6	▲16.6	▲3.8	▲3.4	▲4.1	▲5.4
9月	▲51.0	▲38.6	▲13.3	▲10.3	▲15.0	▲12.4	▲1.4	▲3.9	▲3.5	▲3.6
12月	▲34.5	▲21.8	▲10.8	▲15.0	4.0	▲12.7	▲1.6	▲4.0	▲4.2	▲2.9
見通し	▲31.0	▲14.5	▲8.6	▲12.8	6.9	▲16.5	▲5.0	▲5.3	▲5.0	▲1.2
(寄与度、前期差)										
調査時期	消費指数(伸び率%)	景気判断指数				暮らし向き指数				
		景気	雇用環境	物価	世帯収入	資産価値	支出状況	暮らしのゆとり		
18年 9月										
12月	▲1.1%	1.1%	▲2.4%	▲2.2%	5.5%	▲1.9%	0.0%	▲0.6%	▲1.3%	▲0.2%
19年 3月	14.8%	8.9%	4.5%	1.6%	3.0%	5.6%	1.9%	1.7%	1.4%	0.8%
6月	▲19.3%	▲16.0%	▲1.7%	0.2%	▲14.3%	▲3.7%	0.0%	▲1.7%	▲2.0%	0.2%
9月	▲18.5%	▲13.1%	▲4.9%	▲8.0%	▲0.3%	▲5.1%	▲2.9%	0.9%	▲1.5%	▲1.8%
12月	▲36.0%	▲27.3%	▲8.3%	▲3.9%	▲15.1%	▲8.7%	▲2.1%	▲2.7%	▲1.5%	▲2.4%
20年 3月	▲2.5%	▲2.3%	▲1.0%	▲1.1%	▲0.2%	▲0.2%	0.4%	0.1%	▲0.6%	▲0.1%
6月	▲16.8%	▲10.8%	▲4.3%	▲3.2%	▲3.4%	▲6.0%	▲0.7%	▲1.9%	▲1.3%	▲2.1%
9月	▲2.2%	▲2.9%	▲1.0%	▲2.2%	0.3%	0.7%	0.4%	0.1%	▲0.3%	0.6%
12月	▲8.8%	▲3.3%	▲3.0%	▲6.0%	5.8%	▲5.5%	▲1.4%	▲1.7%	▲1.4%	▲0.9%
見通し	0.6%	3.5%	0.9%	0.7%	1.9%	▲2.9%	▲2.2%	▲0.9%	▲1.0%	1.1%
(寄与度、前年同期差)										
調査時期	消費指数(伸び率%)	景気判断指数				暮らし向き指数				
		景気	雇用環境	物価	世帯収入	資産価値	支出状況	暮らしのゆとり		
18年 9月										
12月										
19年 3月										
6月										
9月	▲21.7%	▲17.1%	▲4.3%	▲8.7%	▲4.1%	▲4.6%	▲1.1%	0.6%	▲3.1%	▲1.0%
12月	▲63.6%	▲50.8%	▲11.9%	▲11.1%	▲27.7%	▲13.1%	▲3.6%	▲2.0%	▲3.6%	▲3.8%
20年 3月	▲96.9%	▲74.5%	▲21.1%	▲17.1%	▲36.3%	▲22.4%	▲5.7%	▲4.2%	▲7.0%	▲5.5%
6月	▲92.8%	▲66.9%	▲23.4%	▲19.7%	▲24.0%	▲25.5%	▲5.8%	▲5.2%	▲6.3%	▲8.3%
9月	▲66.2%	▲50.1%	▲17.3%	▲13.4%	▲19.5%	▲16.1%	▲1.9%	▲5.0%	▲4.6%	▲4.6%
12月	▲33.0%	▲20.8%	▲10.3%	▲14.3%	3.8%	▲12.1%	▲1.5%	▲3.8%	▲4.0%	▲2.8%
見通し	▲28.9%	▲13.5%	▲8.0%	▲11.9%	6.4%	▲15.4%	▲4.7%	▲4.9%	▲4.7%	▲1.1%

(注) 四捨五入により、各項目の寄与度を足し合わせても消費指数(伸び率)とは必ずしも一致しません。

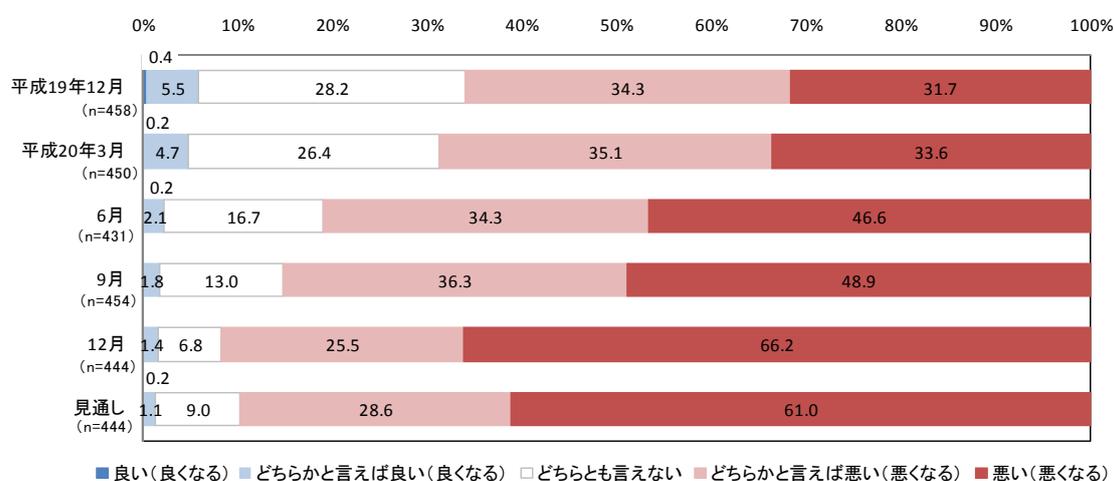
Ⅱ. 調査結果

1. 景気判断と見通し

① 県内景気

現状認識は「悪い」(66.2%)と「どちらかと言えば悪い」(25.5%)を合わせると91.7%の世帯が悪いと判断しており、県内の景気に対する不安感は拡大している。また、今後の見通しについても「悪くなる」(61.0%)および「どちらかと言えば悪くなる」(28.6%)と考えている世帯が89.6%となるなど、先行き不安感も依然として高い。

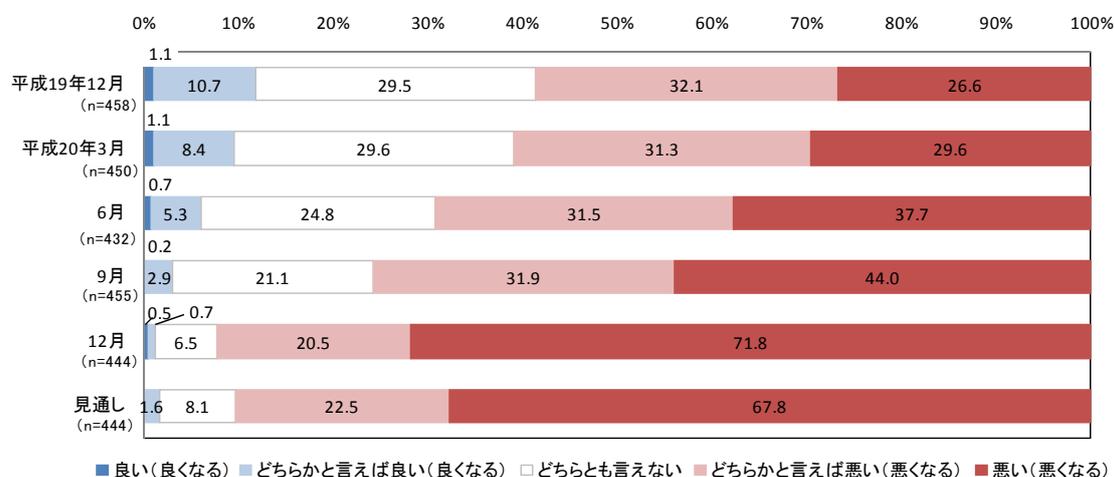
図表 4 県内景気に対する認識



② 雇用環境

現状認識は「悪い」(71.8%)と「どちらかと言えば悪い」(20.5%)を合わせると92.3%の世帯が悪いと判断しているなど、雇用環境の悪化に対する警戒感は厳しさを増している。また、今後の見通しについても「悪くなる」(67.8%)および「どちらかと言えば悪くなる」(22.5%)と考えている世帯が90.3%となっており、先行き不安感も高い。

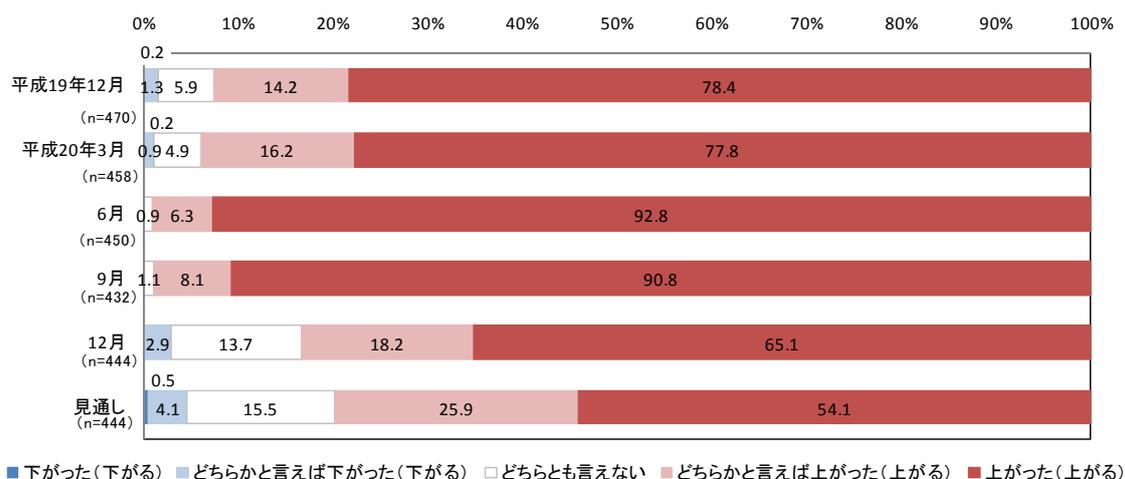
図表 5 雇用環境に対する認識



③ 日用品価格（物価）

現状認識は「上がった」（65.1%）と「どちらかと言えば上がった」（18.2%）を合わせると83.3%の世帯が上がったと感じているが、物価上昇に対する警戒感はいくぶん和らいだ。ただ、今後の見通しについては、「上がる」（54.1%）および「どちらかと言えば上がる」（25.9%）と考えている世帯が8割に達しているなど、引き続き物価に対する警戒心の高さが伺える。

図表 6 日用品価格（物価）に対する認識



図表 7 景気・雇用・物価などに関する主な自由回答

(住まい、世帯主年齢、世帯収入)

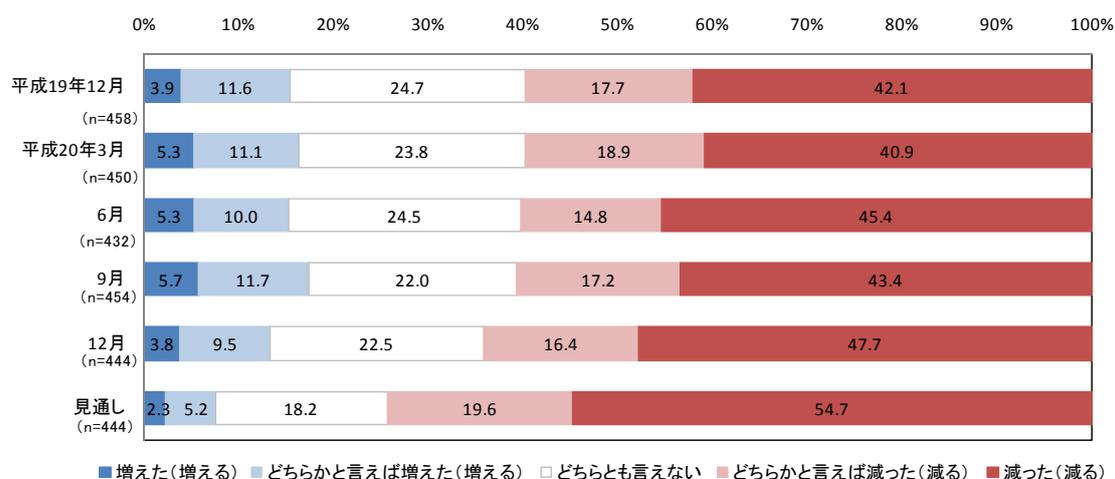
<p><景気全般></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経済状況が不透明なので、全てにおいて買い控えている。(村山地区 35 歳 300~499 万) ・ 円高やリーマンショックなど海外が原因で日本も急に景気が悪くなった気がするし、しばらく続くと思う。ただ山形においてはサッカーJ1昇格や大河(来年)ドラマの影響などで少し景気も盛り上がるのかとも思う。(村山地区 28 歳 500~799 万) ・ 山形県全体が暗くなっているのがとても感じられます。お店の倒産などがとても多く、バイパス沿い等の暗さが目立ち雰囲気がとても暗い。スーパー等も安売りの日以外はガラガラでびっくりしています。(村山地区 32 歳 300~499 万) ・ 金融不安、原油価格の不安定さ、収入減など現状のことや、社会保障など、これからの不安を日々悩んでいる感じです。とにかく世界的に安定した情勢になる事を祈る毎日です。(庄内地区 30 歳 ~299 万) ・ 不景気だけれど、それほど切迫してなかったが、最近強く感じる。(庄内地区 42 歳 300~499 万) ・ 会社全体、社会全体が景気の悪い方向。世の中の悪い方向に向かって行っているようで、不安。全て不安の大きい世の中になっています。(置賜地区 43 歳 300~499 万) <p><雇用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最近経済状況の悪化、リストラ等のニュースを目にする事が多くなりました。今後の雇用環境が良くなる事を願うと共に、これ以上の景気悪化を懸念しています。(庄内地区 25 歳 300~499 万) ・ 世界的に不況と言われ、リストラも問題となってきて、他人事とは言えない不安がある。子供もまだ小さいので、これから経済的にとても心配。(最上地区 29 歳 ~299 万) ・ 11 月までデジタルカメラ製造に関わる仕事をしていましたが、親会社のリストラがあり、12 月からはその仕事がストップしています。現在は製造を再開するのをひたすら待っている状態で、果たしてどうなるのか不安な日々を送っています。まさか自分がこんな事になるとは夢にも思っていませんでした。(村山地区 37 歳 ~299 万) ・ 9 月の失業(会社倒産)以来ハローワークに通っているが、月毎に求人が減り、失業者が増え、年内の再就職はとても難しく、当面主人の収入だけで生活するため、子供の家庭教師をやめました。主人も派遣な為、いつTVで流れている事が身に振りかかるか毎日不安で仕方ない。(庄内地区 39 歳 ~299 万) ・ 今現在、契約社員(事務職)で働いているが、現在の会社の景気を考えると、次の更新が難しそうだ。今後の生活がとても不安。(庄内地区 34 歳 500~799 万) ・ 非正規社員の解雇数を目の当たりにさせられ、子供達の就職のことも考えさせられ厳しい現実は切実です。(庄内地区 47 歳 500~799 万) ・ パートで働いているので雇用に対する不安がある中で、来年子供の高校入学を控え、ますます節約と考えるこの頃です。(村山地区 49 歳 300~499 万) ・ 雇用状況がますます厳しくなってきた、いつリストラや倒産が身の回りに起こるかもしれないと思うと、節約をして貯蓄へ意識を向けざるを得ない。未来の心配のないような生活を送れるような日々は果たしてくるのでしょうか。(庄内地区 49 歳 500~799 万) ・ ハローワークへ行くたび、求人が減っていると感じます。村山地区 59 歳 800 万~) ・ つい先日、夫(世帯主)の会社で非正規社員全員が解雇された。隣家の奥さんもパートを解雇され、子供の友達のお母さんも今月で解雇が決まったとの事。夫も今は解雇を免れているが、いつそうなってもおかしくない。求人数も減少している中、とても不安な日々を過ごしている状況。全国的にこういう人達はたくさんいるのだろうと感じる。(村山地区 46 歳 300~499 万) <p><物価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一時期のガソリン代の高さから少しはましな価格になり、車を利用する者として“ホッ”としています。もう少し安くなるとうれしいのですが…。(置賜地区 51 歳 500~799 万) ・ 冬前に原油価格が下がり、灯油代の心配をする事がなくなったのは本当に助かりましたが、収入も減っており物価も上昇…。家計を預かる主婦の正念場です!!(庄内地区 43 歳 500~799 万) ・ ガソリンの価格が今年では下がっているので、灯油代も含め、昨年よりは、気持ち的に暖かい冬を過ごせそうです。このまま価格が安定してほしいものです。(村山地区 35 歳 300~499 万) ・ ガソリン代は下がってきたが灯油の価格が変わらないので、冬は厳しい…。パンとかも値上がった分が元に戻ってないので辛い。収入も増えず大変厳しい。(庄内地区 37 歳 300~499 万) ・ 原油が値上がりしたために値上げた分の物価が元に戻らず高いままなので、物価がいつ下がるのか気になる。ガソリン、原油高を理由に値上げた分を元に戻して欲しい。◆(庄内地区 79 歳 ~299 万) ・ 日用品、食料品等、生活に必要な物の価格が上がってきていることから、景気悪化を感じる。◆(村山地区 35 歳 500~799 万)
--

2. 暮らし向き判断と見通し

① 世帯（勤労）収入

現状認識は「減った」（47.7%）と「どちらかと言えば減った」（16.4%）を合わせると64.1%の世帯が減ったと感じている。また、今後の見通しについても、収入が「減る」（54.7%）および「どちらかと言えば減る」（19.6%）と考えている世帯が74.3%となるなど、収入の減少に危機感を募らせる世帯が増えている。

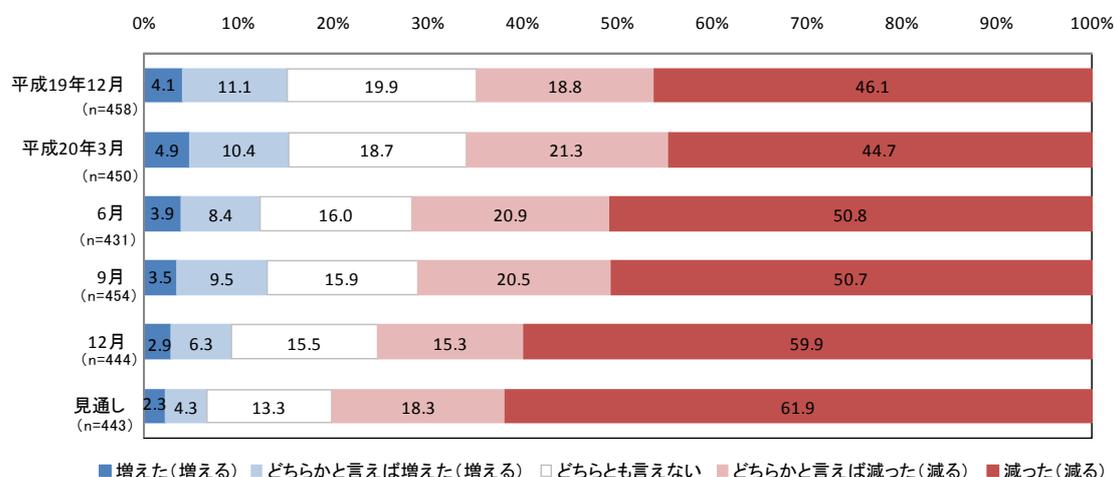
図表 8 世帯（勤労）収入に対する認識



② 資産価値

現状認識は「減った」（59.9%）と「どちらかと言えば減った」（15.3%）を合わせると75.2%の世帯が資産価値は減ったと感じているなど、資産価値の下落を気にする世帯は多い。また、今後の見通しについても資産価値は「減る」（61.9%）および「どちらかと言えば減る」（18.3%）と考えている世帯の割合が8割を超えるなど、資産価値の下落に対しても警戒感が強まっている。

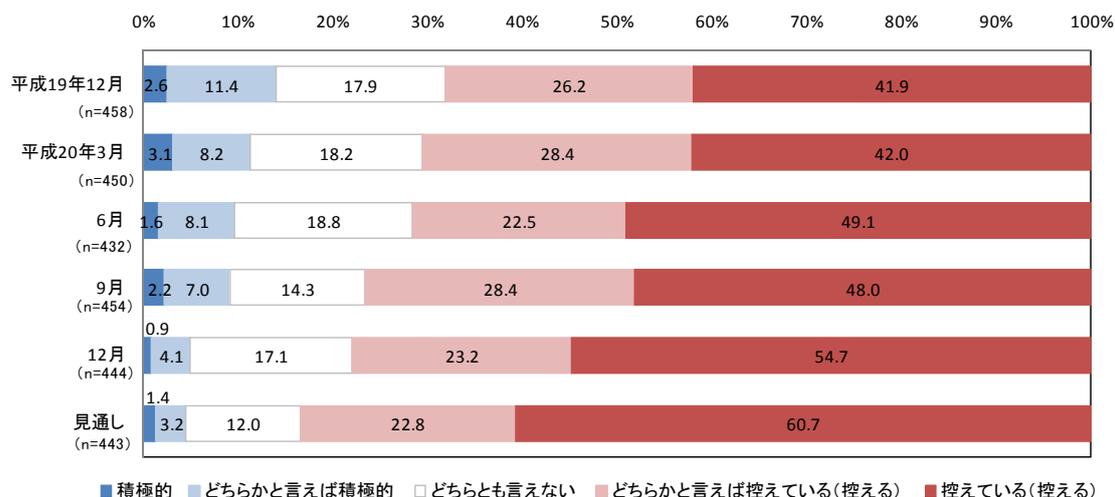
図表 9 資産価値に対する認識



③ お金の使い方（支出状況）

現状認識は「控えている」（54.7%）と「どちらかと言えば控えている」（23.2%）を合わせると77.9%の世帯がお金を使うことを控えているなど、支出意欲は徐々に低下している。また、今後の見通しについても「控える」（60.7%）および「どちらかと言えば控える」（22.8%）という世帯が83.5%と拡大傾向にあり、今後はさらに節約思考が強まる見込み。

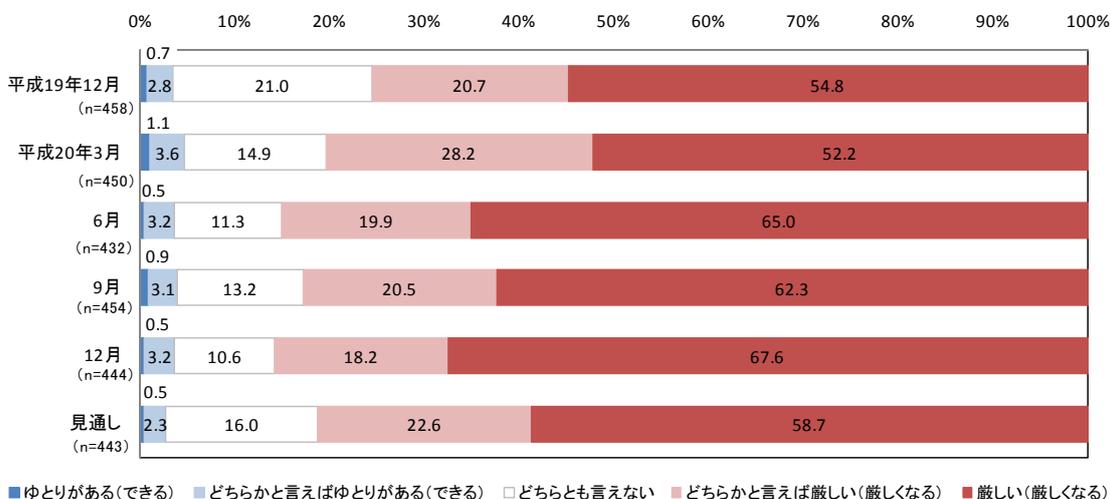
図表 10 お金の使い方（支出状況）に対する認識



④ 生活のゆとり

現状認識は「厳しい」（67.6%）と「どちらかと言えば厳しい」（18.2%）を合わせると85.8%の世帯が厳しいと感じているなど、生活のゆとりを実感できない世帯は多い。また、今後の見通しについては、「厳しくなる」（58.7%）および「どちらかと言えば厳しくなる」（22.6%）と見込む世帯が81.3%となっており、依然として生活のゆとりが見込めないと考えている世帯が多い。

図表 11 生活のゆとりに対する認識



図表 12 収入・資産・お金の使い方・生活のゆとりに関する主な自由回答

(住まい、世帯主年齢、世帯収入)

<収入>

- ・ 収入の担い手である 2 人共、賞与のない状況になってきたので、貯蓄をするのが難しくなってきました。(庄内地区 50 歳 500~799 万)
- ・ 夫の残業を会社側から削減するようにと通達があり、大きく収入が減っていきそうである。(置賜地区 47 歳 800 万~)
- ・ ますます景気が悪くなりパート収入も少なくなってきたので今後どうなるのか心配です。(庄内地区 39 歳 ~299 万)
- ・ 日々、家計が苦しくなっている事が分かる。収入の増える見込みはなく、子供が大きくなるにつれて不安が大きくなる。雇用も不安定で職もみつからない状態のためお金をかけて子供を預けて働いても保育代にもならず、職を探すに探せない。(村山地区 24 歳 ~299 万)
- ・ 給与の手当て等が削減になったりして収入が減ってきている。特別給付金が支給になるようだが、それで本当に景気がよくなるものか、後で別の所でのしわよせがくるのではないかと不安。(村山地区 39 歳 300~499 万)

<資産>

- ・ 増えると思って購入した投資の金額が半以下になり、経済がこのまま悪くなれば収入も減り、大変な世の中になってしまうと思う。心配な事ばかりで生きているのが嫌になる。(置賜地区 43 歳 500~799 万)
- ・ 株の取引が大きなダメージを受けており、消費は冷え込む。ボーナスシーズンに何ともタイミングが悪い。(村山地区 - 500~799 万)
- ・ ムダが嫌いなので普段からかなり節約を意識してきました。ただ、資産の多くを株等で運用していたため貯めていたものの価値が大幅に下がり、むなしさを感じています。先々のことを考えない方が結局豊かに暮らせるのではと思う今日この頃です。(村山地区 43 歳 800 万~)
- ・ 暗い報道ばかりで、将来に対して不安が増す。確定拠出年金の運用が株主体のため、大幅な損金の状態。(置賜地区 52 歳 500~799 万)
- ・ 株価がだいぶ下がっているので、少しの余裕資金を投資しようと思っています。(多少、不安はありますが、景気回復を期待して...)(村山地区 34 歳 ~299 万)

<お金の使い方>

- ・ 欲しいと思えるものがあったとしても、すぐ買わない。少し時間をおいてそれでも必要であるならば買う事とする。(その間に買わずに間に合わせるか、買う時の価格や安い店をリサーチする)(置賜地区 50 歳 500~799 万)
- ・ 個人年金の額を増やし、将来に備えたいと考えている。(村山地区 52 歳 500~799 万)
- ・ 本当に抑えたいものにはお金を使わないようにしています。今後もっとその傾向になると思う。(庄内地区 45 歳 300~499 万)
- ・ 今後は子供達の教育費が増える為、何かしらの節約をしなければならない。今は、必要ないものは買わない精神でいます。(村山地区 43 歳 300~499 万)
- ・ 日々暗いニュースや現実的に生活しにくい状況です。60 歳を目前に老後が心配です。本日ガソリンが 114 円でした。嬉しいです。低燃費車を購入したら、ガソリン代が以前より減りました。エコ替えも有りだと思います。(村山地区 59 歳 300~499 万)

<生活のゆとり>

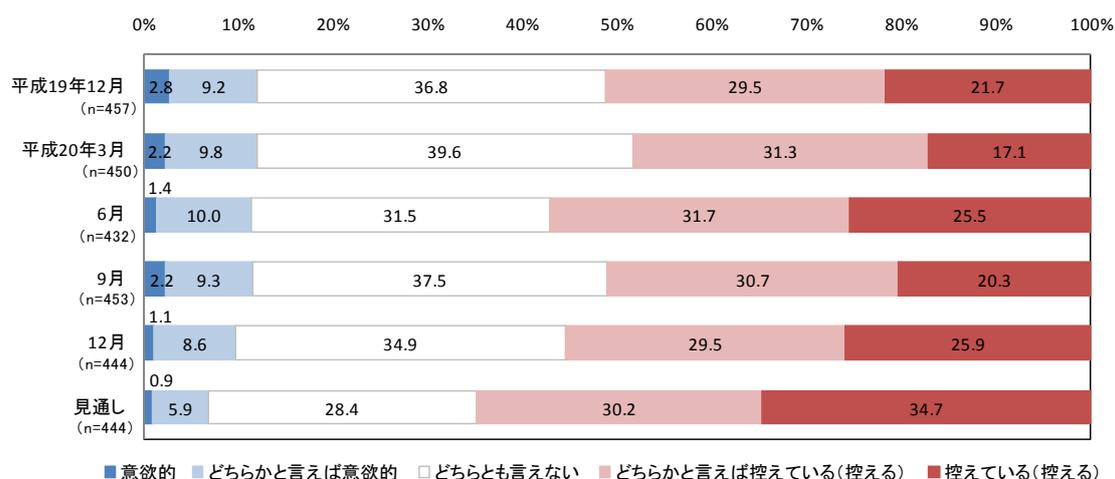
- ・ 第 3 子が生まれ、妻の収入が 0 になったため生活はぐっと厳しくなったが、赤ちゃんのいる幸せは何事にもかえがたいものだ改めて実感した。しかし、医療費などで生活が苦しい。子育てしながら働く人にもっと優しい社会になって欲しい。(庄内地区 37 歳 500~799 万)
- ・ 毎日のように不況という言葉が聞かれる中、小さい子供を持つ親として今後が不安である。(最上地区 34 歳 500~799 万)
- ・ 衣食で出費を控えたい所ですが、子供の成長でどうしても出費は増えざるを得ない。成長は喜ばしいことなので、遣り繰りしつつリサイクル品も利用しながら耐え凌ぐ状態です。(村山地区 35 歳 500~799 万)
- ・ 家計は毎月赤字で、貯金を引き出して何とかやるしかなく、食費を切り詰めたいと思いながら、子供(2 歳)のために栄養のある物をと、なかなか食費を減らせない。外食もできず、欲しい服も買えず、貯金は先月で無くなり、毎月困っています。(置賜地区 41 歳 ~299 万)
- ・ 私は 50 代ですが、将来の年金収入だけでは生活ができないのではと考えると不安になってきます。(村山地区 81 歳 500~799 万)
- ・ 収入が増えないのに食費や日用雑貨が年々上がり生活にゆとりがなくなり、これからの生活が不安である。夫が 60 代、妻 54 歳なので医療・介護費を考え貯蓄していきたい。(置賜地区 60 歳 ~299 万)

3. 日常の買い物に関する判断と見通し

① 嗜好品（お茶・コーヒー、お酒、たばこなど）

現状認識は「控えている」（25.9%）と「どちらかと言えば控えている」（29.5%）を合わせると 55.4%の世帯が嗜好品の購入を控えている。また、今後の見通しについても購入を控えると考えている世帯が多く、買い控える傾向はさらに強まる見込み。

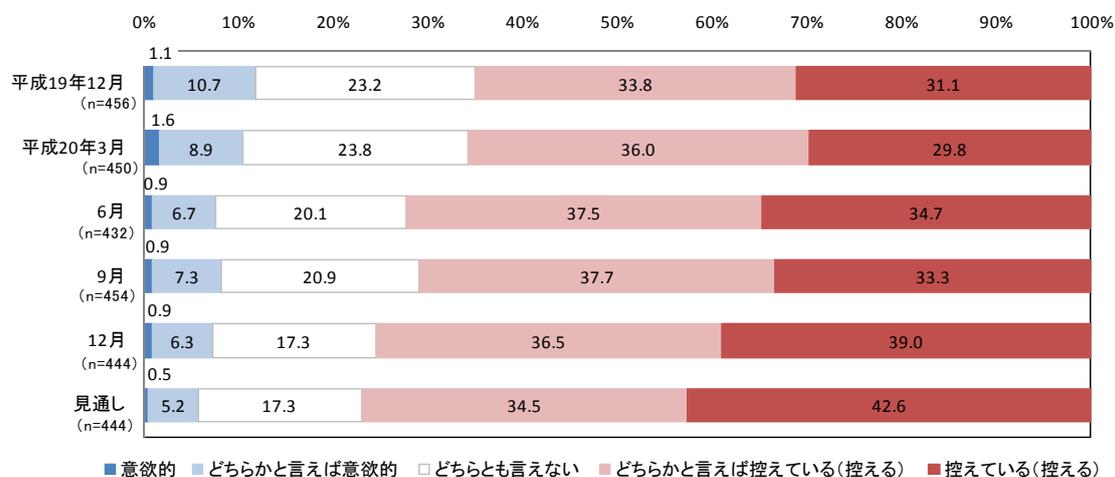
図表 13 嗜好品の購入意向



② ファッション衣料・靴など

現状認識は「控えている」（39.0%）と「どちらかと言えば控えている」（36.5%）を合わせると 75.5%の世帯が購入を控えているほか、買い控える傾向が強まっている。また、今後の見通しについても購入を控えると考えている世帯は根強く残っており、買い控えの傾向がさらに強まる見込み。

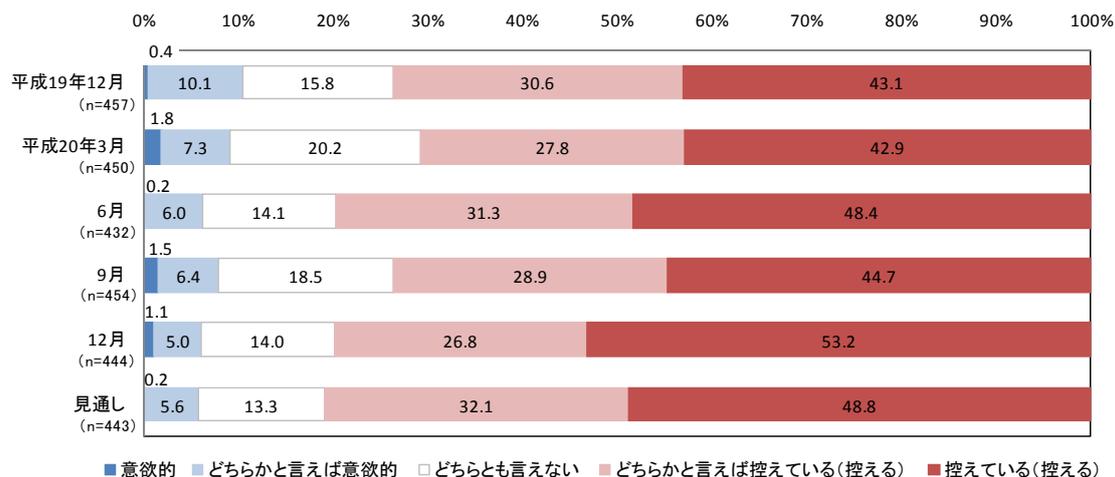
図表 14 ファッション衣料・靴などの購入意向



③ 家電・AV製品、家具など

現状認識は「控えている」(53.2%)と「どちらかと言えば控えている」(26.8%)を合わせると80.0%の世帯が購入を控えている。また、今後の見通しについても購入を控えると考えている世帯は多く、買い控えの傾向が続く見込み。

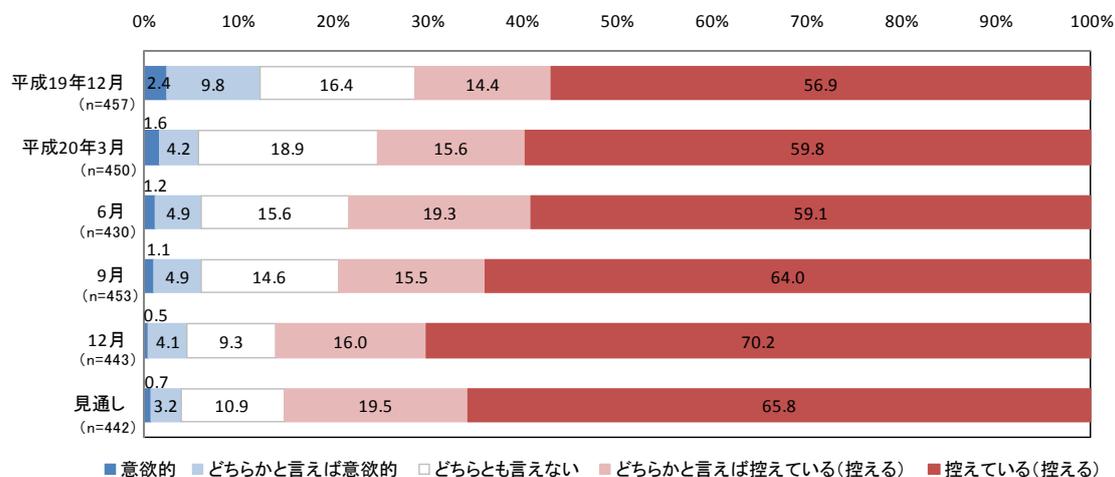
図表 15 家電・AV製品・家具などの購入意向



④ 金融商品(株式、債券など)

現状認識は「控えている」(70.2%)と「どちらかと言えば控えている」(16.0%)を合わせると86.2%の世帯が購入を控えているほか、買い控える傾向も徐々に高まっている。また、今後の見通しについても、購入を控えると考えている世帯が依然として多く、買い控える傾向は続く見込み。

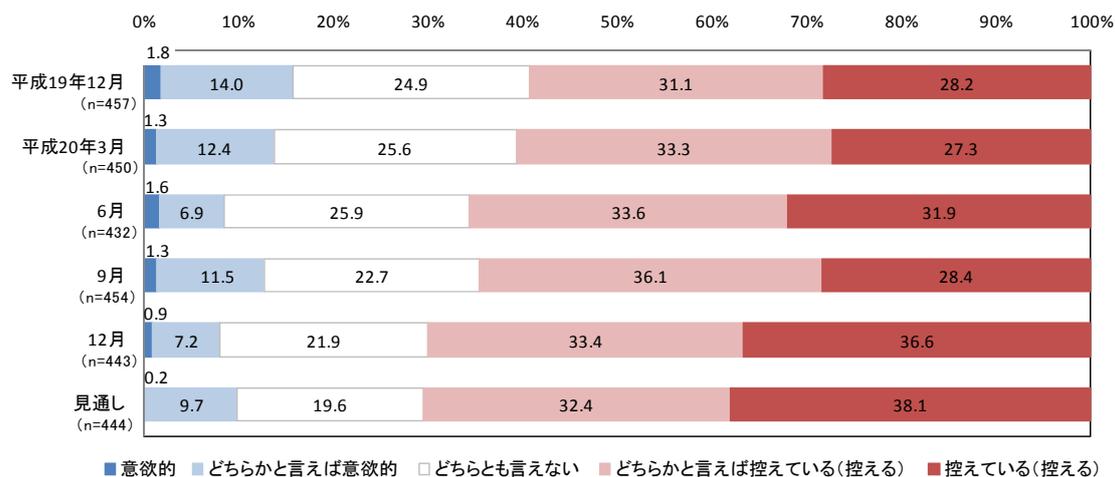
図表 16 金融商品の購入意向



⑤ 娯楽・レジャー

現状認識は「控えている」(36.6%)と「どちらかと言えば控えている」(33.4%)を合わせると70.0%の世帯が支出を控えているほか、支出を控える世帯が徐々に増えている。また、今後の見通しについても、引き続き支出を控える意向の強い世帯が多い。

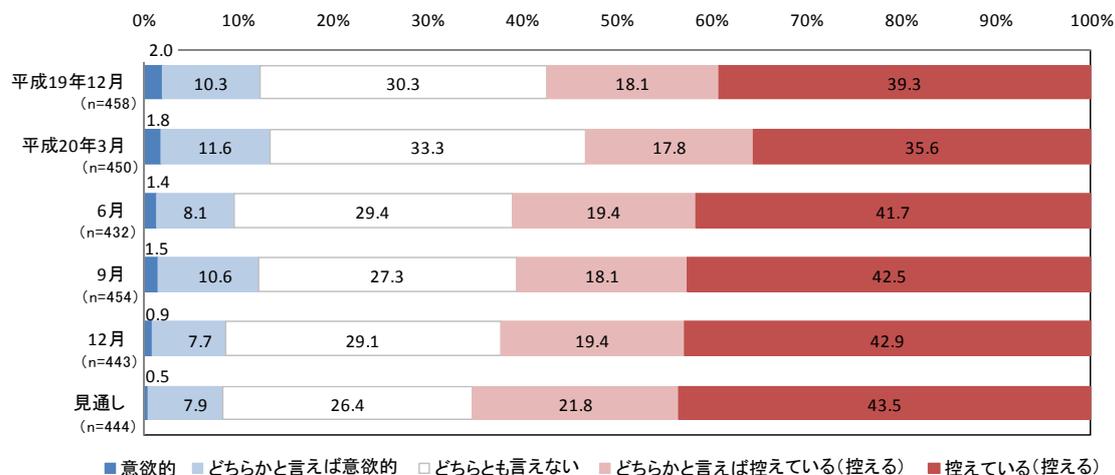
図表 17 娯楽・レジャーへの支出意向



⑥ 習い事

現状認識は「控えている」(42.9%)と「どちらかと言えば控えている」(19.4%)を合わせると62.3%の世帯が支出を控えている。また、今後の見通しについても、支出を控えると考えている世帯がやや増える傾向にある。

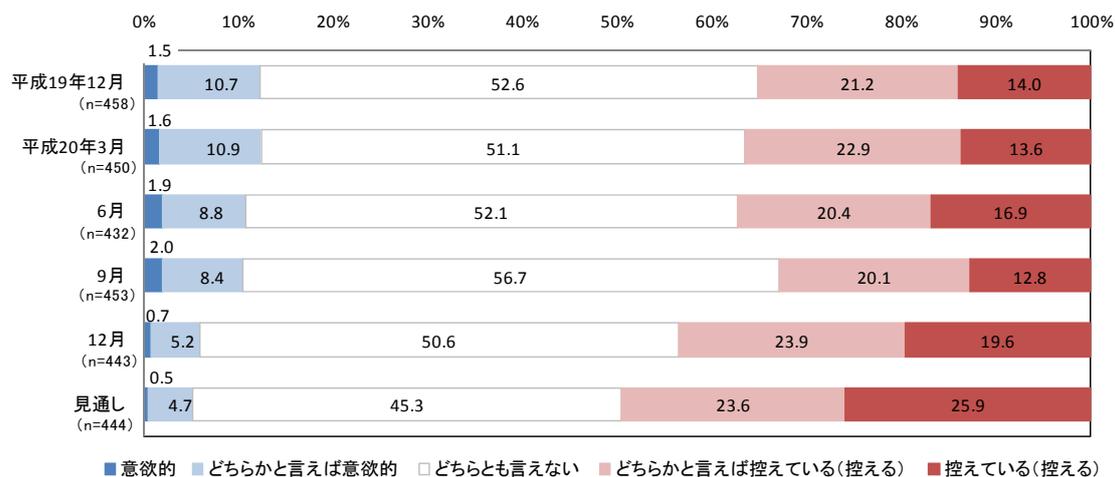
図表 18 習い事への支出意向



⑦ 交際費

現状認識は「どちらとも言えない」と回答した世帯が過半数を超えているものの、「控えている」(19.6%)と「どちらかと言えば控えている」(23.9%)を合わせると43.5%の世帯が支出を控えている。また、今後の見通しについても、交際費の支出を控えると考えている世帯が増えており、支出を手控える傾向がさらに強まる見込み。

図表 19 交際費の支出意向

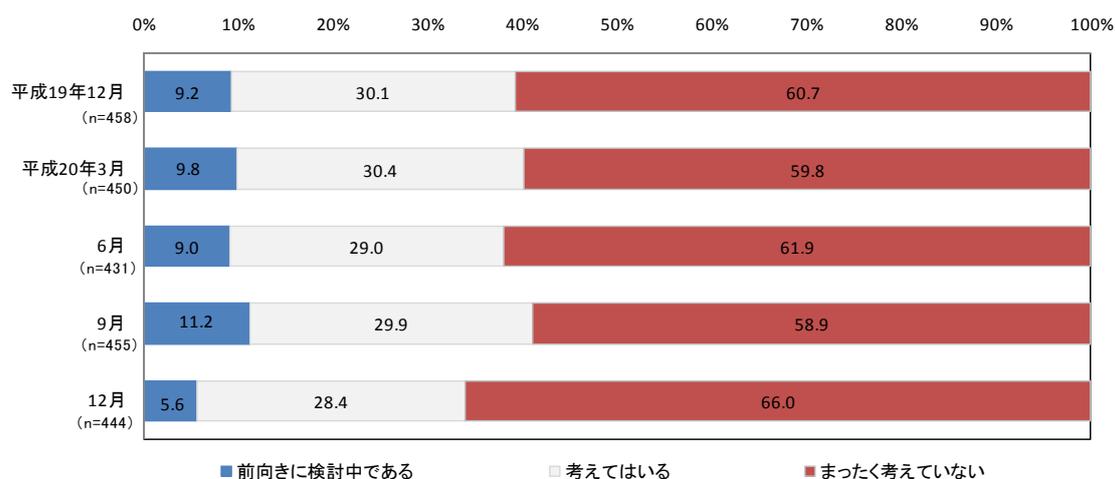


4. 大きな買い物に関する判断と見通し

① 自家用車

自家用車の購入については「まったく考えていない」という世帯が66.0%を占めている。昨年同期と比べて「まったく考えていない」という世帯の割合が5.3%ポイント増えており、購入を控える傾向が高まっている。

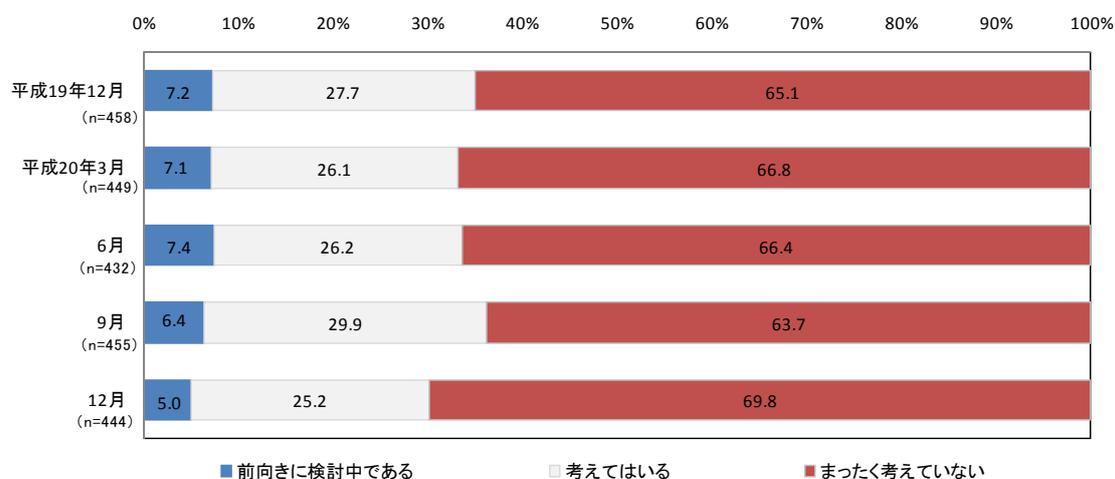
図表 20 自家用車の購入意向



② 住宅の購入・リフォーム

住宅の購入・リフォームについては「まったく考えていない」とする世帯が69.8%を占めている。昨年同期と比べて「まったく考えていない」とする世帯の割合が4.7%ポイント増えるなど、購入を控える傾向が高まっている。

図表 21 住宅の購入・リフォームの意向



Ⅲ. 今月の家計簿

今回の家計簿調査によれば、世帯の平均収入は47.8万円となっており、前年同期比でみて7.1万円(12.9%)の減収となった。特に、世帯主の定期収入が2.8万円の減収(寄与度:▲5.1%)と大きかったことが収入減の主な要因。

一方、世帯の平均支出は34.0万円となっており、前年同期比でみて1.3万円(3.7%)の減少となった。特に、「小遣い」や「その他の支出」などの支出が減っており、ムダ使いや余計なものの購入を極力省く傾向にあるとみられる。

なお、平均消費性向は70.9%であり、前年同期比でみて6.7ポイント増加した。

図表 22 収入・支出の動向

(単位:円)

	19年 12月	20年 9月	12月	前期差		前年同期差		
					寄与度		寄与度	
収入	①定期収入	265,037	236,564	236,915	351	0.1%	▲28,122	▲5.1%
	②臨時収入	39,984	22,189	46,133	23,944	5.1%	6,149	1.1%
	1. 世帯主の収入	305,021	258,753	283,048	24,295	5.2%	▲21,973	▲4.0%
	①他の人員の定期収入	128,578	118,191	117,844	▲347	▲0.1%	▲10,734	▲2.0%
	②他の人員の臨時収入	29,726	15,912	14,804	▲1,108	▲0.2%	▲14,922	▲2.7%
	2. 他の人員の収入	158,305	134,103	132,648	▲1,455	▲0.3%	▲25,657	▲4.7%
	①社会保障給付	36,213	33,522	26,781	▲6,741	▲1.4%	▲9,432	▲1.7%
	②預(貯)金引き出し	29,510	35,131	17,814	▲17,317	▲3.7%	▲11,696	▲2.1%
	③借入れ	911	2,792	1,925	▲867	▲0.2%	1,014	0.2%
	④財産売却	170	0	1,268	1,268	0.3%	1,098	0.2%
	⑤その他	19,570	6,767	15,432	8,665	1.8%	▲4,138	▲0.8%
	3. その他収入	86,374	78,212	63,220	▲14,992	▲3.2%	▲23,154	▲4.2%
I. 収入計	549,700	471,068	478,916	7,848	1.7%	▲70,784	▲12.9%	
支出	1. 食費	57,903	58,540	58,360	▲180	▲0.0%	457	0.1%
	2. 住居費	43,684	47,190	44,208	▲2,982	▲0.8%	524	0.1%
	3. 水道・光熱費	25,386	23,784	27,319	3,535	0.9%	1,933	0.5%
	4. 通信・交通費	33,001	33,556	31,378	▲2,178	▲0.6%	▲1,623	▲0.5%
	5. 被服・装飾費	15,013	11,160	12,481	1,321	0.4%	▲2,532	▲0.7%
	6. 各種保険料の支払い	39,382	38,811	38,154	▲657	▲0.2%	▲1,228	▲0.3%
	7. 医療・介護費	11,464	10,719	12,423	1,704	0.5%	959	0.3%
	8. 育児・教育費	26,021	28,214	26,836	▲1,378	▲0.4%	815	0.2%
	9. 仕送り	10,334	9,317	8,309	▲1,008	▲0.3%	▲2,025	▲0.6%
	10. 小遣い	40,329	42,907	38,208	▲4,699	▲1.3%	▲2,121	▲0.6%
	11. ローン・月賦の支払い	16,994	16,145	12,567	▲3,578	▲1.0%	▲4,427	▲1.3%
	12. その他支出	33,359	54,787	29,544	▲25,243	▲6.7%	▲3,815	▲1.1%
II. 支出計	352,869	375,130	339,787	▲35,343	▲9.4%	▲13,082	▲3.7%	
平均消費性向(支出計÷収入計×100)	64.2%	79.6%	70.9%	▲8.7%ポイント	—	6.7%ポイント	—	

(注) 四捨五入により、各項目の寄与度を足し合わせても収入計もしくは支出計の寄与度(伸び率)とは必ずしも一致しません。

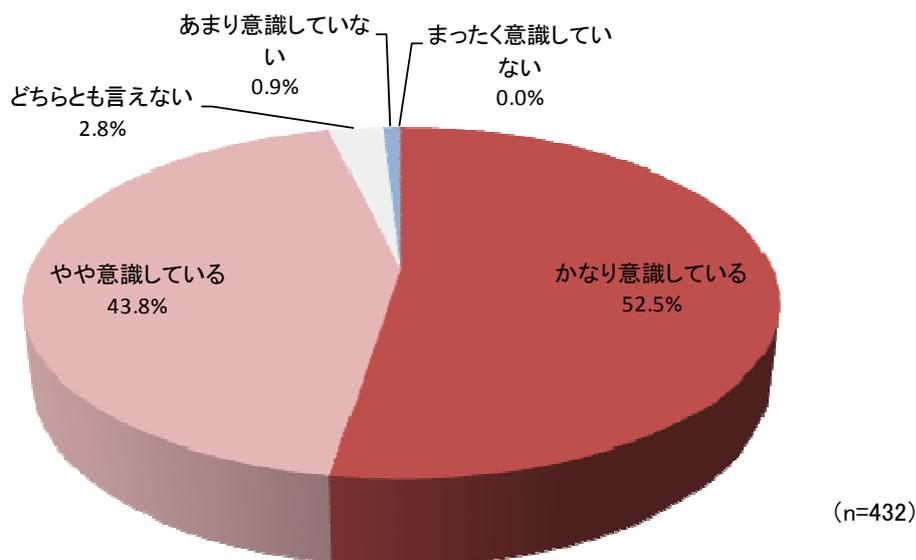
IV. 特別調査：節約の意識について

近年、景気後退局面における消費の景気下支え効果が薄らいできていると言われる。永続的な収入増加を期待しがたい上に、雇用に対する信頼感や社会保障制度に対する将来不安が山積しているため、不況時にはさらに消費が冷え込んで景気回復を遅らせる要因となる可能性も懸念される。そこで、家計の消費動向をさらに詳細に検証すべく、日々の節約意識等について特別調査を行った。

(1) 節約の意識について

日々の生活でどの程度節約を意識しているか尋ねたところ、「かなり意識している」と答えた世帯が52.5%を占めていたほか、「やや意識している」(43.8%)と回答した世帯を含めるとほぼすべての世帯が節約を意識しているという結果であった。

図表 23 節約の意識

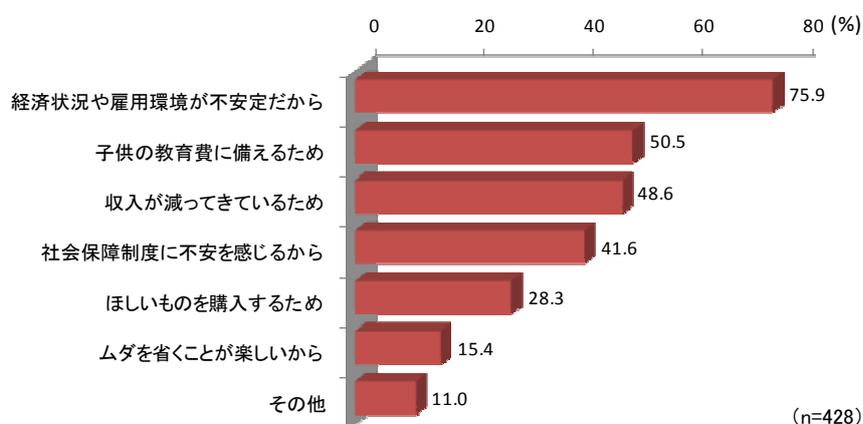


(2) 節約を意識している理由

(1) で節約を意識していると回答した世帯に対して、その理由を尋ねた（複数回答）ところ、「経済状況や雇用環境が不安定だから」と回答した世帯が 75.9%を占めるなど、昨今の経済情勢の悪化を受けて節約を志向する世帯が増えている様子うかがえた。

また、「収入が減ってきているため」（48.6%）や「社会保障制度に不安を感じるから」（41.6%）といった点を理由に挙げる世帯も多く、生活防衛目的や将来不安に対する意識の高さなどから日々節約を心がけている様子もうかがえた。

図表 24 節約を意識している理由（複数回答）



一方、世帯主の年齢別に節約を意識している理由を再度集計したところ、各世代のすべてで「経済状況や雇用環境が不安定だから」が第 1 位を占めたほか、「収入が減ってきているため」も上位を占めた。また、20 歳代～40 歳代の世帯では「子供の教育費に備えるため」が上位に入ったほか、50 歳代以上の世帯では「社会保障に不安を感じるから」とする回答が上位に入るなど、世代によっては節約する理由に若干の違いも見られた。

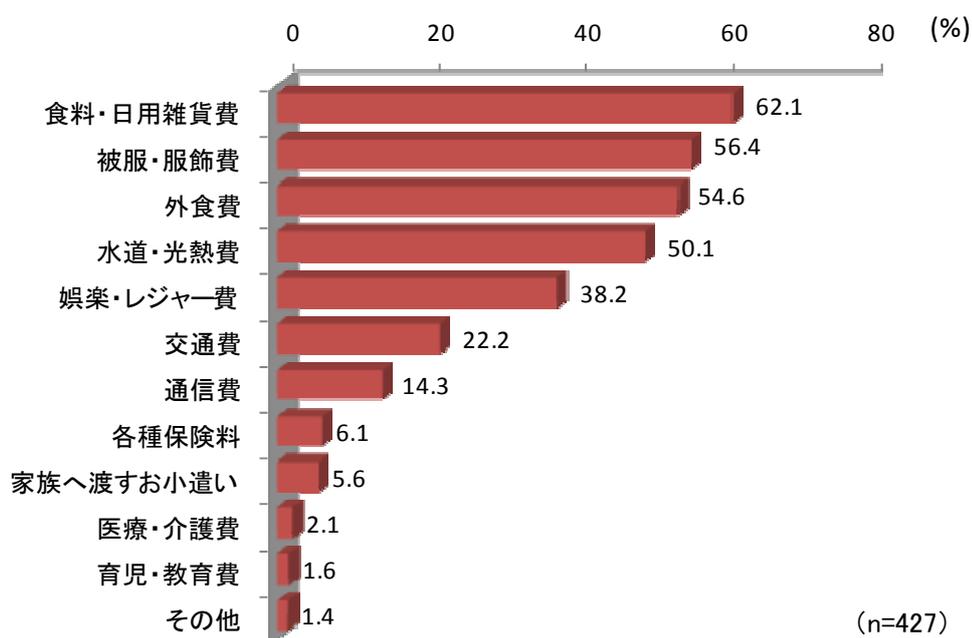
図表 25 世帯主の年齢別・節約を意識している理由（複数回答）

	第 1 位	第 2 位	第 3 位
20 歳代	経済状況や雇用環境が不安定だから(59.3%)	ほしいものを購入するため(55.6%)	子供の教育費に備えるため(51.9%)
30 歳代	経済状況や雇用環境が不安定だから(70.9%)	子供の教育費に備えるため(55.3%)	収入が減ってきているため(35.9%)
40 歳代	経済状況や雇用環境が不安定だから(79.3%)	子供の教育費に備えるため(70.3%)	収入が減ってきているため(52.3%)
50 歳代	経済状況や雇用環境が不安定だから(84.8%)	収入が減ってきているため(58.7%)	社会保障制度に不安を感じるから(53.3%)
60 歳代以上	経済状況や雇用環境が不安定だから(72.3%)	収入が減ってきているため(55.4%)	社会保障制度に不安を感じるから(51.8%)

(3) 節約を特に意識する出費

また、特に節約を意識している出費について尋ねた（回答は3つまで）ところ、「食料・日用雑貨」が62.1%と最も多かった。食料等は支出に占める割合が高く出費の頻度も高いことや相次ぐ値上げの影響などから、節約に対する意識が非常に敏感になっていると思われる。

図表 26 節約を特に意識する出費（回答3つまで）

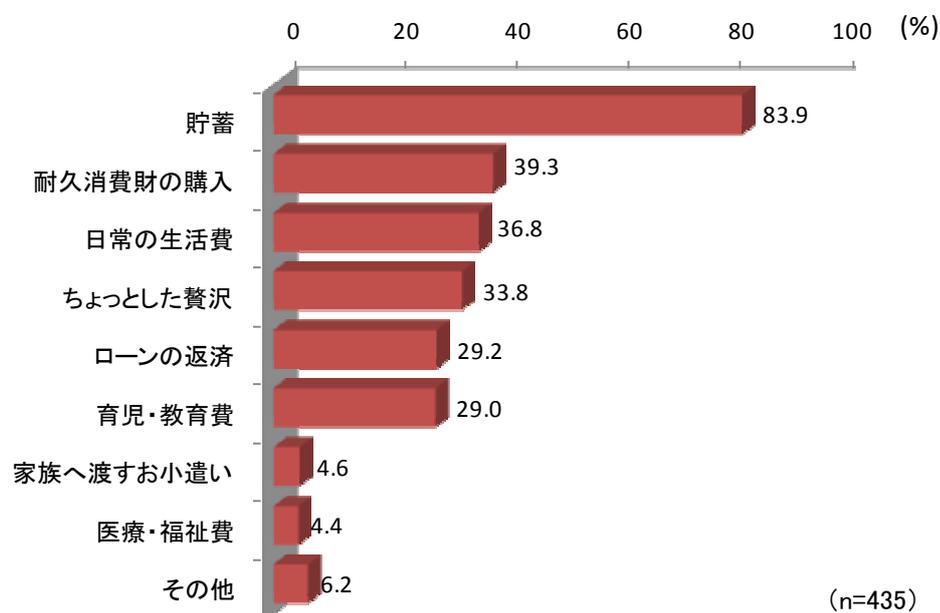


(4) 年収50万円増額の使い道

今後、なんらかの理由で手取り収入が年間10万円増える状態が5年間続くと仮定した場合に、その増額分の使い道を尋ねた(回答は3つまで)。最も多い回答は「貯蓄」で83.9%となっており、収入が増えてもすぐには消費しないという世帯が多かった。

仮に、景気対策としての所得減税などが実施されたとしても、その政策効果の即効性はあまり高いとは言い切れないようである。

図表 27 年収50万円増額の使い道 (回答3つまで)



V. 調査の概要

1. 調査の目的

県民の暮らし向きや今後の見通しについて時系列的に捉えるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の方法

- ・ 郵送調査専属モニターを利用したアンケート調査
- ・ モニター世帯数：464 世帯 ※今回の有効回答世帯数（回答率）：444 世帯（95.7%）

3. 調査の対象者

- ・ 県内に在住する勤労者（サラリーマン）世帯（世帯人数2人以上の世帯）

4. 調査期間

- ・ 平成20年12月1日～15日

5. 調査項目

（1）判断項目

① 景気判断（五肢択一）：

「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格（物価）」に関する現状認識と見通し。

② 暮らし向き（五肢択一）：

「世帯収入」、「資産価値」、「お金の使い方」、「暮らし向き」に関する現状認識と見通し。

③ 日常の買い物や支出動向（五肢択一）：

「嗜好品（お酒、たばこなど）」、「ファッション衣料・靴など」、「家電・AV製品、家具など」、「金融商品（株式、債券など）」、「娯楽・レジャー」、「習い事」、「交際費」の支出に関する現状認識と見通し。

④ 大きな買い物や支出動向（三肢択一）：

「自家用車」、「住宅（リフォーム含む）」の支出に関する現状認識と見通し。

（2）計数項目

① 最近1ヵ月の収支状況

6. 指数の作成方法

- (1) 「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格（物価）」、「世帯収入」、「資産価値」、「お金の使い方」、「暮らし向き」の7項目について、回答者の回答結果にポイントを与える。
- (2) ポイントの与え方は、例えば「県内景気」については、「良い」(1.0)、「どちらかと言えば良い」(0.5)、「どちらとも言えない」(0.0)、「どちらかと言えば悪い」(▲0.5)、「悪い」(▲1.0)とする。
- (3) 「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格（物価）」は家計を取り巻くマクロ経済環境に関する世帯の認識を把握するための設問であるため、回答者ごとにこれらのポイントを合計した後、「景気判断指数」としてまとめる。
- (4) 「世帯収入の増え方」、「資産価値の増え方」、「お金の使い方」、「暮らしのゆとり」は“我が家の暮らし向き”に関する世帯の認識を把握するための設問であるため、回答者ごとにこれらのポイントを合計した後、「暮らし向き指数」としてまとめる。
- (5) 「景気判断指数」と「暮らし向き指数」に対して質問項目数とサンプル数をウェイトとする係数を乗じ、両指数を標準化した上で足し合わせ、「消費指数」とする。

以上

<お問い合わせ先>

株式会社荘銀総合研究所

研究開発グループ 熊本／齋藤（信）

〒990-0043 山形県山形市本町1-4-21 荘銀山形ビル8F

TEL : 023-626-9017

FAX : 023-626-9038

E-mail : kenkyuu@sfsi.co.jp

URL : <http://www.sfsi.co.jp/>